

アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。

バリューゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

新型コロナウイルスとゴルフ

新型コロナウイルスの脅威にさらされている。マスクは、連日のようにこのニュースに追われている。一部の医療評論家は、この病気のピークを4、5月あたりとコメントしており、となると、東京オリンピックの2カ月前まで感染に対する恐怖は続くことになる。

感染エリアが地球規模になっているだけに、ゴルフのトーナメントプロデューサーとしても、どうしても注意を払わないわけにはいかない。実際、中国で行われるトーナメントはもろんのこと、アジアで行われる試合も懸念されるが、先日ついにアメリカ本土にも飛び火した。

飛行機をはじめとしたワールドワイドな交通機関の大幅な路線の変更や、入国時のヘルスチェックもかなり厳格で、時間もかかってくるであろう。さらに、3月から幕を開ける日本国内のトーナメントも場合によっては、それなりの衛生体制を備える必要がある、そうなるにギャラリーもマスクを着用し、なんとも絵にならない試合観戦にもなりかねない。

プロゴルフファーストは、他のスポーツと同様に、あちらこちらに試合ごと移動をする。よって、普通のビジネスマンと比べると交通機関を使うことが多いだけに、必要以上にこの病に対する最新の注意を払わなければならないが、それにはまず日本全国でも二千数百あるゴルフ場の衛生管理を徹底することが肝心である。

東京オリンピックがいよいよあと150日あまりとなった。あるスポーツ新聞によると、5月段階での感染者数や蔓延するエリアによっては、大会の延期や、中止もありうるという書かれてあった。世界各国から、マスコミ関係者だけでも数万人が来日し、その観客数は300万人〜500万人と言われているだけに見過ぎすわけにはいなくなってきた。とにかく早く、ウイルスに対する対策を発見して欲しいものだ。

ゴルフと健康は、当たり前だが切っても切れない関係で、通常は筋肉痛やら腰痛やら骨の痛みなどの問題が多いのであるが、今回は感染症である。ツアーは、それをサポートするスタッフがいて、ゴルフ場という巨大な舞台があり、それを広げてくれるマスコミ、そして何より何百万人のゴルフファンが存在している。新型コロナウイルスのように、何年に一度かの疫病も、ゴルフ業界にとっては大切な経験の一つとして今後もリスク対策のノウハウとして培っていききたいものだと思う。



戸張 捷 Sho Tobari

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデューサー、コンサルティングなども手掛けている。